



## 「節目」において養う大切なもの～主体的に取り組むための学習サイクル～

校長 風間 浩也

芦花小中学校の敷地を囲む緑道や街路樹の枝先に春の気配が色濃くなっている今日頃この頃です。

つい最近までハクモクレンは硬く閉じた毛をまとった殻（外殻被というそうです）に包まれていましたが、今では殻はすでに割れて開き、真っ白いハンカチのような花が咲きこぼれています。先日の帰りの夜道には、文学館の前の歩道にヒキガエルが2匹、温かい春雨にうたれているのを目にしました。色々な場所で四季の移ろいを感じられるのも、この芦花の学び舎の豊かさの一つであると思まれた環境のありがたさを感じています。

さて、今週の水曜日に迫った卒業式を追うように、学校の桜のつぼみも膨らんで開花も間近となっています。日本の学校にとって、1年が巡る「節目」として、桜は象徴的な役割を果たしていると改めて思うところです。

この「節目」をもつということは、成長にとってとても大切なものです。今、学校においては「キャリアパスポート」などを活用し、1年間の自分自身の歩みを振り返り、次のステップに向けて新たな目標を立てているところです。

現行の学習指導要領においては、各学習の評価を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点に整理しています。特に評価において「分かりにくい」「難しい」と言われるものが「主体的に学習に取り組む態度」です。どうすれば人の内面に関わる「主体的」なものを目に見える形として評価に落とし込むことができるのかということを全国の中学校では令和3年度の全面実施以来、浸透させているところです。「主体的に学習に取り組む態度」は、単元や学習活動ごとに、学習の目標を設定し、その学習目標に対して知識や技能、見方や考え方を働かせて、自ら課題解決に向かって取り組む姿を見取っていくものです。この時に見取るべきことは、「粘り強く取り組もうとする側面」「自己の学習を調整しようとする側面」です。このことを単元や学習活動ごとの「節目」において、強く意識させるようにしています。

具体的には、各単元（授業）において、最初に目標を設定し、途中で目標達成のために手だてや取り組み方を自己調整し、単元（授業）末に振り返り、次の単元（授業）の見通しを持たせることを行っています。現行の学習指導要領においては、この「学習サイクル」を身に付けることで、生涯に渡って自らの課題に取り組み、課題を解決する力を身に付けられると考えています。

今、芦花中学校においては、年度末という「節目」にあたり。「学年」という1年間の大きな単元の振り返りを行い、次のステップに向けた目標設定を行っているところです。一人一人の状況によっては、保護者と一緒に校長面談を行っていますが、その中で多くの方が、次の進学先や新しい学年に向けての希望や目標を自らの言葉で表現してくれています。この「節目」があるということにより、一人一人が、「自分らしさ」に応じた未来の希望をもつことにつながっています。「節目」は、「主体的に自らの人生を切り拓いていく力」を養うために大切なものになっているのです。

中学校の卒業式は、義務教育の集大成となる大きな「節目」の行事と位置付けられています。中学3年生たちにとっては、自らの力で切り拓いた未来の扉を開け、自分の足で歩き始めるための大切な儀式となります。芦花の学び舎を巣立つ卒業生の姿を保護者や地域の方。後輩、教職員と多くの方々に見守っていただけたら幸いです。